

わけがあってこちら側に止まっています

～心のバリアフリー～

指導者用資料

1 ねらい

世の中には多様な人がいることを理解し、尊重・配慮しようとする態度を育てる。

2 主題設定の理由

世の中には年齢や性別、国籍など様々な人がいて、中には身体等が不自由な人もいます。多様化する社会を生きていく子どもたちは、そうした多様性を理解し、尊重・配慮する態度が必要となる。本教材を通じてそうした資質を育むとともに、一人一人が多様性に配慮した行動をすることでみんなが快適に過ごせる社会がつくられていくことを理解させたい。

3 教材

【第1部（漫画1～4ページ）】

ある日、駅のホームで出会ったタツヤと松ちゃんは、下りのエスカレーターの前へやって来る。すると、みんな左側に並んでいて、右側は空いている。何となくモヤモヤしながら左側に立つ二人だが、右側を歩いていく人を見て、急いでいる人のためにあけていることに気付く。エスカレーターに乗ってふと前方を見ると、右側に立っている女性がいる。不思議に思っていると、右側を急いで下りてきた男性が女性の後ろまで来て困惑する。

【第2部（漫画5～8ページ）】

第1部の続き。男性が女性に「すみません。ちょっと、どいてもらえますか？」と言う。女性は悲しい表情で左側に移る。すると男性は勢いよく駆け下りていくが、その途中でお年寄りが持つ杖に足が引っかかり、危うく転びそうになる。ふとタツヤたちが左側に移った女性を見ると、少し不自然な姿勢で右手で手すりをつかんでいる。タツヤは「女の人、ひょっとしたら左手が不自由なのかも」と思う。エスカレーターを降りた後に周囲を見渡すと、杖を持ったお年寄りや小さな子どもを連れた人、先を急いでる人など、街にはいろんな人がいることに気付く。

4 指導のポイント

- 第1部を読んだ後、エスカレーターの乗り方について教師の側から正解は示さず、女性や男性の行動を見てどうするのがよいかを子どもたち自身に考えさせる。
- 第2部を読んだ後、世の中にはいろんな事情を抱えている人がいて、思いやりの心を持つことや想像力を働かせることが大事だということを理解させる。

授業展開

	学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	<p>1 多様な人たちについて想起させ、発表し合う</p> <p>○世の中にはどんな人がいるか 「皆さん、電車に乗りますよね。駅を利用する人には、どんな人がいると思いますか?」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●意見が出てこない場合は、「例えば、会社に行く大人がいるよね。他には?」などと問い掛ける。
展開 (35分)	<p>2 教材「わけがあってこちら側に止まっています～心のバリアフリー～」の第1部 (1～4ページ) を読む</p> <p>○エスカレーターの乗り方について、児童の認識を共有する。 「タツヤくんは空いている右側ではなく左側に並びました。なぜ、そうしたと思いますか?」</p> <p>○登場人物（歩いて降りる男の人、右側に立つ女の人）の乗り方について、児童の思いを共有する。 「女の人が右側に立っていました。この行動についてどう思いますか?」 「エスカレーターの乗り方は、どうするのがよいと思いますか?」</p> <p>3 教材「わけがあってこちら側に止まっています～心のバリアフリー～」の第2部 (5～8ページ) を読む</p> <p>○エスカレーターに乗る人の中には、いろいろな事情を抱えた人がいることを知る。</p> <p>○安全に注意して、相手を思いやった行動について考える。 「漫画に出てきた以外にも、エスカレーターにはどんな人が乗ると思いますか?」 「人はいろいろな事情を抱えていて、思いやりの心を持つことや想像力を働かせることが大事なんですね」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●教師の側から正解らしきことは示さず、児童自身の日頃の行動、漫画の登場人物の行動をもとに、児童から多様な意見を引き出し、考えさせる ●見た目では分からないが体が不自由な人もいることを知り、世の中にはいろいろな事情を抱えている人がいることを理解させる
終末 (5分)	<p>4 エスカレーターの事故について教師の説話を聞く</p> <p>「漫画の最後にかかれていますが、エスカレーターの事故は結構たくさん起きていますよ」 「最近、エスカレーターは歩かないことが社会的なマナー・ルールになりつつあるんだよ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●エスカレーターのようなゆっくりした乗り物も、気を付けないと大きな事故になることを伝える。 ●最近、エスカレーターは歩かないことが社会的なマナー・ルールになってきており、公共交通機関もそう呼びかけていることを伝える

板書計画

↓心のバリアフリー

だれにとってもすみやすいよのなかをつくる

えきにはどんな人がいる?

- ・学校に行く人
- ・仕事に行く人
- ・あそびに行く人
- ・友だちに会いに行く人

エスカレーターののり方について

- ・いそいでいる人のために右をあげる
- ・右がわも歩かない方がいい
- ・立ち止まってのるのがいい

エスカレーターにはどんな人がのる?

- ・杖を持ったお年寄り
- ・体がふじゆうな人
- ・目が見えない人
- ・小さな子どもをつれたお母さん
- ・大きな荷物を持った人

今日学んだこと

- ・よのなかにはいろいろなじょうをかかえた人がいる
- ・そうした人たちのことを思いやりながら行どうすること

【導入】

- T 皆さん、電車に乗りますよね。駅を利用する人には、どんな人がいると思いますか？
- C 学校に行く人がいます。
- C 仕事に行く人がいます。
- T その他には？
- C 遊びに行く人がいます。
- C 友達に会いに行く人がいます。
- T そうですね。いろんな人がいます。今日は、駅を使う人たちのことについて考えていきたいと思っています。

【展開】

《前半：漫画の第1部（1～4ページ）を読んだ後》

- T タツヤくんは空いている右側ではなく左側に並びました。なぜ、そうしたと思いますか？
- C それは、右側は急いでいる人が歩けるようにするためです。
- T そうですね。でも、漫画の中で女の子の人が右側に立っていました。この行動についてどう思いますか？
- C 男の人が困っているので、左側に移った方がいいと思います。
- T では、なぜ女の子は右側に立っているのだと思いますか？
- C それは、後ろの人に気付いていないんだと思います。
- C 右側をあけるということを知らないんじゃないかと思います。
- T みんなも、右側はあけた方がいいと思いますか？
- C その方がいいと思います。
- C でも、右側に乗ってもいいと思います。
- C エスカレーターを歩くと危ないから、みんな立ち止まって乗るのがいいと思います。

《後半：漫画の第2部（5～8ページ）を読んだ後》

- T 漫画を読んで分かったと思うけど、世の中にはいろんな事情を抱えた人がいます。エスカレーターにはどんな人が乗ると思いますか？
- C 杖を持ったお年寄りが乗ります。
- C 体が不自由な人が乗ります。
- C 目が見えない人が乗ります。
- C 小さな子どもを連れのお母さんが乗ります。
- C 大きな荷物を持った人が乗ります。
- T そうですね。本当にいろんな事情を抱えた人が乗ります。だから、そうした人たちのことを思いやりながら行動することが大切なのです。
- こうして、いろんな人たちのことを考えて、お互いが理解を深め合おうとすることを「心のバリアフリー」と言います。一人一人が「心のバリアフリー」を意識して行動することが、誰にとっても住みやすい世の中をつくることになるのです。

1 エスカレーターの右側に乗りたい人について

世の中には、脳卒中などの病気や交通事故などにより、右半身や左半身に麻痺がある人がいます。そうした人たちの多くはエスカレーターに乗るのも一苦勞で、できれば手すりをつかんで乗りたいと考えています。左半身に麻痺があるKさんは普段、エスカレーターに乗るときに右手で手すりをつかんで乗り、その後慎重に左側へ移動しています。本当は右側に乗って手すりをつかみ続けたいのですが、外見的には麻痺があると分からないこともあり、「通勤時間帯は『あける！』と言われることもあるので、右側に乗り続けるのは難しい」と話します。また、左側に乗って右手で手すりをつかむ人もいますが、体制が不安定になるため少々危険です。



右手で手すりをつかんで乗る



手すりをつかんで慎重に…



左側へ移動

2 公共交通機関の見解

数多くのエスカレーターを設置している公共交通機関では、どのような立場を取っているのでしょうか。以前は「右側をあける」が暗黙の了承となっていたものの、ここ数年は「手すりにつかまり、歩かず、2列で立ち止まって利用」を積極的に呼び掛けるようになりました。理由の一つは、エスカレーターを歩くと転倒をするリスクが高まり、最悪の場合は複数の人を巻き込んだの重大事故になりかねないからです。また、2列で乗った方が待機列が解消し輸送効率が高まることも、公共交通機関が立ち止まって乗ることを推奨する理由の一つです。そのため、最近ではJRや東京メトロなど多くの鉄道会社や自治体が、「立ち止まって乗る」を推奨するポスターを掲示するなどして、啓発に努めています。



東京メトロのポスター

3 「止まって乗る」を条例で制定

エスカレーターは「止まって乗る」をルール化しようとする動きも、全国各地で起きています。2021年10月、埼玉県ではエスカレーターで立ち止まることを義務づけた「埼玉県エスカレーターの安全な利用の促進に関する条例」を全国で初めて制定しました。この条例の第5条で「立ち止まった状態でエスカレーターを利用しなければならない」と定めており、歩いた場合の罰則こそないものの、エスカレーターを管理する側にこのルールを周知していく義務を課しています。また、愛知県名古屋市でも同様のルールを条例化する方向で検討が進んでいるところです。こうした動きを見ても、今後は「止まって乗る」が全国共通のルールとなっていく可能性が十分に考えられます。